

住民の生活を守る、住民出資の「道の駅」 「ふらっと美山」成功の軌跡

京都府 美山町



お問い合わせ先
ふらっと美山(有限会社ネットワーク平屋)
TEL 0771-75-0190
http://www4.ocn.ne.jp/~flatmiya/

京都府北桑田郡美山町は、全体の約九十五％を森林が占める、人口密度約十五人／平方キロメートルの山深いまちです。数年前の民間バス会社の撤退、その後のJAの広域合併に伴う店舗の閉店と、車を持たない高齢者は食料品や日用品の買い物にも不自由する恐れが出てきました。そこで、町がJAの各店舗を買い取り、住民有志が一人五万円の出資をして有限会社を設立、営業を引き継ぐことになりました。その代表格「ふらっと美山」は、初年度から黒字を達成するなど経営的にも成功を収め、平成十七年八月には「道の駅」にも登録されています。ここでは、過疎化の進む地域で生活を守るため、JAの店舗営業を引き継いだ住民の取り組みを紹介します。



農産物、加工品、土産物などが整然と並び店内。奥には日用品コーナーも

JA広域合併による店舗閉鎖が「ふらっと美山」の出発点

美山町は、京都府のほぼ中央に位置する面積約三百四十平方キロメートル、人口約五千二百人のまちです。美しく豊かな自然に囲まれ、昔ながらの民家が残る「かやぶきの里」として有名です。標高八〇九メートル級の連山の間を流れる由良川には、京都府企業局の大野発電所（水力、一万一千ワット）や関西電力株式会社の和知発電所（水力、五千七百ワット）があつて、近畿地方の

かやぶきの里

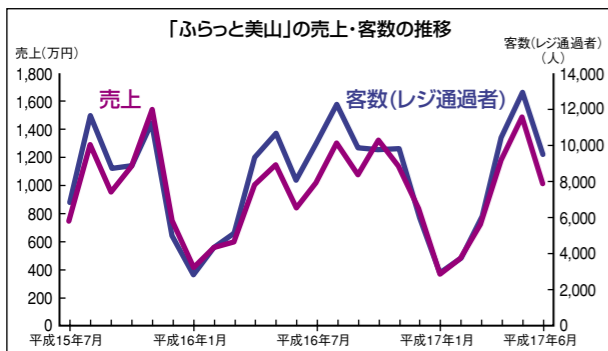
美山町北集落は、現在50戸中38戸がかやぶき屋根建築の集落で、集落でのかやぶき建築数は岐阜県白川村荻町・福島県下郷村大内宿に次ぐ全国第3位です。また、その他の伝統技法による建築物群を含めた歴史的景観の保存度への評価も高く、平成5年、国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けました。



電力供給に貢献しています。美山町は京都市に隣接し、市街地から約五十キロメートル、車で一時間半ほどと、都市部に比較的近い地域です。しかし、平成六年にJRバスが廃止され、町内の公共交通機関は本数の少ない町営バスに依存しています。京都駅へは途中JRバスに乗り換えて二時間以上、最寄りのJR山陰本線知駅へも三十分以上かかります。美山町農協は平成十二年、南丹地域にあつた九つのJAの広域合併により、京都南丹農業協同組合（JA京都南丹・現JA京都）となりました。合併当初、町民の日常生活を支えてきた美山支店（現「ふらっと美山」）は当面存続す

る予定でしたが、その後の方針転換で閉鎖が決まりました。住民一人五万円の出資でJAの店舗を引き継ぐ

JA美山支店は、食料品や日用品をはじめ、生活必需品の購入に不可欠の存在でした。特に、車を持っていなかったり、市街地までの運転が困難だったりする高齢者には死活問題です。そこで、農家以外も含めた住民有志が集まり、自らの生活を守るために一人五万円の共同出資をして店舗営業を維持することを決断しました。集まったメンバーは計八十七名です。その中心は、かつて観光案内所で野菜や土産物を販売していた地域振興会の



人たちが、店舗前で野菜の無人スタンドを開設していたJA女性部の人たちが、「緑のふれあい市場」と呼ばれる朝市に参加していた人たちなどでした。

準備委員会では、経営を軌道に乗せるためには一定の事業規模が必要と考えて、有限会社を選択しました。有有限会社には社員五十名以下という制約があるため、準備委員会で活動していた十八名が社員として出資金を負担し、残りの六十九名は「預かり金」の形で資金協力しました。不足する活動資金は、地域振興



「ふらっと美山」の基礎を築き、積極的な経営を進める有限会社ネットワーク平屋 代表取締役 加地唯男さん

会の販売で得た剰余金でまかないました。

店舗は町が買い取り無償貸与運営は支援を受けずに自立

こうして「ふらっと美山」を運営する有限会社ネットワーク平屋が誕生しました。店名は、平屋地区の「平」の英語「Flat」（フラット）と、誰でも気軽に「ふらっと」立ち寄れるという意味から名付けました。

店舗を引き継ぐ際、最大の難問はJAの店舗施設の買い取りでした。当初約六千万円とされた評価額は、その後の評価替えもあり、最終的な美山町への売却価格は一億四千万円にもなりました。しかし、施設がなければ何もできません。町も「地域の人たちが自

ら汗をかき、頑張るのなら」と決断を下し、実質的な負担が三割で済む過疎債を活用して買い取りが実現しました。

現在、店舗施設は有限会社が町から無償で借り受けています。「ふらっと美山」に限れば、家賃を支払っても経営は成り立ちますが、町内にはJAから引き継いだ店舗が他に三カ所あり、他店の採算も考慮した結果です。同社の代表取締役・加地唯男さんは語ります。「『ふらっと美山』は、店舗の購入や修繕費の負担など、行政の協力なくしては生まれませんでした。しかし、その後の運営では一切支援を受けず、自立した経営をしています。商売は現場の生の声が大事なので、行政への過度の期待や依存は禁物です」。

在庫ゼロの地元産の品揃えと町外固定客が好調の要因

町内の旧JA四店舗の中でも、「ふらっと美山」の好調

さは特筆に値します。その要因は、次のような点にあります。

要因1 国道沿いの立地条件
舞鶴自動車道や京都縦貫自動車道が整備され、車の流れも多少変わりましたが、古くから京都と若狭を結ぶルートである国道百六十二号線に面しており、交通量は町内一です。手軽なドライブやツーリングのコースとして、若者にも人気があります。

要因2 町外を重視した経営形態
地域の利便性だけを追求しては、経営は成り立ちません。そこで、町外からの観光客を重視する方針を打ち出し、地域経済への貢献に力を入れていきます。最近の調査では、観光シーズンには町外からの顧客が八割にも上ります。

要因3 地元産中心の品ぞろえ

市場や他地域から「売れる」商品を仕入れれば、利益は上がります。しかし、「ふらっ

と美山」では店舗の個性を發揮し、永く支持されるために地元産を意識した品ぞろえを徹底しています。野菜はもちろん、それ以外にもほとんどが町内か周辺地域の商品です。

要因4 在庫を持たない経営

野菜をはじめ、店内に並ぶ商品の八〇％が委託販売です。店が在庫を抱えずにすむため資金面で有利で、年間一億二千万円の売上に対し、棚卸品はわずか二、三百万円しかありません。また、買取り品であっても不良品は返品できなくも作っているため、不良在庫はゼロです。黒字の秘訣は、この在庫ゼロにあると言っても過言ではありません。



国道162号線沿いに建つ「ふらっと美山」

新鮮な野菜はすべて地元産 売上の八十割は生産者に

「ふらっと美山」の店内には、地元農家が毎朝届ける新鮮な野菜が並びます。単価が安いため売上に占める割合は十六割ほどですが、新鮮・安心・安全な野菜がずらりと並ぶ光景は、店のイメージづくりに欠かせません。町の認証制度をパスした野菜も店頭並び、「ふらっと美山」の野菜はどれも新鮮で安心」という消費者の信頼感の源になっています。生産者は年一回、収穫と出荷の計画表を提出します。外部から注文が入った場合は、一週間前から前日にかけて店が注文を伝え、販売当日の午前中に納入する決まりです。



季節の新鮮な野菜が「ふらっと美山」の自慢



店内には大小さまざまな卵が並び

生産者は登録制で、もともと無人スタンドや緑のふれあい市場に出荷していた人たちが中心なので、季節の相場もよく分かっている。値決めもスムーズです。野菜を納入に来たある農家は「現金収入になるので、作り手としてもやりがいがありますね」と語り、敬老会のメンバーが長年作り慣れた作物を持ち込むことも多いといいます。

委託販売品の売り上げは、生産者八十割、店二十割の割合で配分します。約十割の人員費とその他の経費を差し引いても、在庫リスクがないため利益が出て、「ふらっと美山」は初年度から黒字を達成しています。一部には「もうかっていいるなら、もっと生産

者に還元すべき」という意見もありますが、加地さんは「適度の利益はこれからの設備投資などに必要」と考えています。その一方で、生産者に対しては、研修会の開催や、商品にはバーコードラベルの無料化などで還元しています。

地域の利便性に配慮しつつ 個人商店との競合を避ける

開店当初は日用品は販売していませんでしたが、出資条件に「地域の利便性」を掲げていたため、その後、要望の強かった日用品の販売を始めました。しかし、どこにでもある商品を一緒に並べたのでは観光客は興ざめです。そこで、野菜や土産物を守るスペースと、日用品を置くスペースを明確に分けて、店の雰囲気は損なわないよう工夫しています。

日用品の販売を始めたことで、地域の生活拠点としての役割も担うことになり、地元の良いお客には好評です。しかし、町全体の活性化を図る上では個人商店の努力も尊重

なかつた野菜は「品切れ」です。このやり方を続けてきたからこそ、今の好調があるのです。「もうければ何でもい」では、長い目で見て伸びません。利益は少なくとも、地元産を中心に仕入れを続けていきます。

好調な経営を続けるために 将来に向けた課題と展望

新たに道の駅となり、経営も好調な「ふらっと美山」ですが、将来、さらに発展していくためには課題もあります。

課題と展望1

新市誕生に向けた安定経営の持続

美山町は、平成十八年一月

者との交流が生まれ、地域の高齢者の生きがいにもなっています」
養鶏農家 外田誠さん



生産者の声

「うちでは生産量の1~2割を『ふらっと美山』に出荷しています。定期収入になること、卵の場合はネット詰めや化粧箱入りなど、売り方を工夫できるのがいいですね。どれもコンスタントに売れるので、JAでは取引が難しい小さな卵でも出荷できます。捨てるものがないように工夫できるので、生産者も勉強になります。売ることを通じて消費

課題と展望3 利便性と地域との兼ね合い

道の駅となったことで、今後

課題と展望2 道の駅のメリット活用

道の駅に登録されたばかりで、まだメリットを生かし切れていません。今後は、道の駅としての維持・管理などにも配慮が必要です。登録を機に国による案内標識の整備や各種情報誌への掲載などが進むと考えられるので、「ふらっと美山」も自ら積極的なPRや魅力あるイベントの開催を進め、集客力の向上に結びつける工夫が重要です。

美山安全農産物認証制度 「美山安心お野菜」

美山町では、独自に野菜の認証制度を設け、栽培基準を守って栽培された野菜に「美山安心お野菜」の認証シールを添付しています。この制度は、生産者の顔が見える、安心できる、季節感のある農産物を消費者に届けることを目的としています。認証基準は次表のとおり金ランクと銀ランクの2段階があります。

	金ランク農産物	銀ランク農産物
基本原則	化学肥料不使用	減化学肥料
施肥基準	①動植物から抽出した有機質肥料、油粕、魚粕等 ②有機質のみを原料とした混合肥料	①金ランクと同じ ②有機質が窒素成分のおおむね50%以上の混合堆肥
使用推奨堆肥	美山町牛糞堆肥	美山町牛糞堆肥
基本原則	有機JAS認定以外不使用	厳しく限定、必要最小限
農薬基準	除草剤 使用しない 土壌消毒薬剤 使用しない	使用しない 使用しない

を見直す時期に来ています。その点、「ふらっと美山」の考え方は参考になります。

道の駅として新たにスタート 社長の信念に基づく店づくり

「ふらっと美山」は、国土交通省への登録を行い、平成十七年八月から「道の駅・美山ふれあい広場」として新たなスタートを切りました。登録しなくても経営は順調でしたが、町の観光拠点として道の駅が一つはほしいということになり、トイレや公衆電話、観光案内センターなどの要件を満たす「ふらっと美山」が

飲食スペースの設置や品ぞろえの拡大など、地域の個人商店と競合する要望が出される可能性があります。「ふらっと美山」の「一人勝ち」は望ましくありませんが、地域住民や観光客の利便性を確保する上では、再検討が必要になるかもしれません。事業が順調であればこそその悩みです。

課題と展望4 特産品開発への期待

地域に根ざした仕入れを続ける上では、利益率の高い加工品が不可欠です。平成十七年三月からは、加工場の運営が第三セクターの美山ふるさと株式会社から有会社社ネットワーク平屋へと移行されたほか、町でもアイデアコンテストを開催して後押しするなど、付加価値の高い特産品開発への期待が高まっています。

商売を成功に導く上で、何がいちばん大切かという問いに、加地さんは次のように答えてくれました。「私がいちばん大事に思っているのは、店長以下、一人ひとりのスタッフ、それに出資者が仲良くやっていけるといいですね。」

■ふらっと美山
京都府北桑田郡美山町
大字安掛小字下23-2
TEL 0771-75-0190